

調査 1 市民主体の地域福祉を実践するための意識調査(18歳以上の市民)

※設問数, 設問項目の内容については, 今後の検討により変更することがあります。

設問意図	通番	前回 R 元 /新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無 (比較の可否)	共通設問 (※は選択肢が異なる)			
					市民	高齢	障害者	障害児
A 回答者の属性×各設問のクロス集計結果から, 属性毎の特徴や傾向を分析するための設問	1	問 1	性別	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	2	同	年齢	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	3	問 2	居住地域	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	4	問 3	職業 (就労状況)	H28, R 元比較可	●	●		
	5	問 6	居住年数		●	●		
	6	問 7	住居形態 (戸建, 集合住宅, 施設等)		●	●	●	●
	7	問 4	同居の家族構成		●	●	●	●
	8	問 17	困ったときの相談相手 (人・機関)		●	●	●	●
B 地域のつながり, つながりが必要な場面, 地域活動の基盤に関する考えの把握から, ささえあいのきっかけづくり, 地域活動の多様化, 地域参加の促進策を検討するための設問 (地域力強化)	9	問 8	近所づきあいの状況 (付問: 近所づきあいをしていない理由)	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	10	問 26	地域のつながりの必要性	H28, R 元比較可	●	●		
	11	新規	地域のつながりが必要な場面 (付問: つながりを必要としない理由)		●	●	●	●
	12	新規	参加しやすい地域活動の種類 (自治会, NPO, 自主グループ等)		●	●		
C 市民同士でささえあう意識と実践, 活動の現状と関心, 参加しやすい条件の把握から, 共助のきっかけづくり, 共助に意欲ある潜在的な人材への働きかけ方, 実践に結びつける効果的な取組を検討するための設問 (地域力強化, 担い手確保)	13	問 18	手助けしてほしいこと, 手助けできること		●	●	●	●
	14	新規	実際に手助けをした経験 (過去 1 年間) の有無		●	●		
	15	問 19	地域活動・ボランティア活動の取組状況		●	●		
	16	問 20	地域活動・ボランティア活動への取組意向 (付問: 取り組まない理由)	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	17	問 21	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件		●	●	●	●
	18	問 23	身近な拠点の利用状況		●			

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無（比較の可否）	共通設問			
					市民	高齢	障害者	障害児
D 特集テーマ① コロナ禍、ひきこもり、生活困窮、制度の狭間等の実態把握から、必要な対策を検討するための設問 ※特集テーマは、直面する問題・テーマの本質を探る（深掘りする）ための設問	19	新規	コロナ禍による暮らしへの影響の有無（就労、収入等）		●	●	●※	●※
	20	新規	ひきこもり ¹ 、8050 問題 ² 、制度の狭間等の状況（必要な支援を利用しているか。利用していない理由）		●	●		
	21	問 16	経済的な理由で困った経験		●			
	22	問 13	複合的な課題を抱えた世帯の認知状況		●			
	23	新規	複合的な課題を抱えた世帯を発見した際の対処行動		●			
E 特集テーマ② 「デジタル社会 ³ 」を地域福祉に生かす方策を検討するための設問	24	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における情報の受発信・共有の方策、アイデアについて		●	●	●	●
	25	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における交流の拡大・深化の方策、アイデアについて		●	●	●	●
F 特集テーマ③ 人権尊重、権利擁護、成年後見の普及策を検討するための設問	26	新規	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業（社協）の認知度		●	●	●	
	27	新規	将来、判断能力が低下した際、誰に財産管理等を任せるか		●	●	●	
	28	新規	障害者差別解消法、合理的配慮、交流機会等の認知度		●		●	●
G 暮らしの満足度、施策意向の把握から、暮らしやすい地域づくりに向けて重点的な取組を検討するための設問	29	問 10	地域の暮らしの満足度（9 項目）		●	●		
	30	問 12	災害時についての不安や心配ごと	H28, R 元比較可	●			
	31	問 27	ソーシャル・インクルージョン ⁴ に関する意識		●			
	32	問 29	暮らしの中のバリアフリーへの感想（ハード＝市内施設等、ソフト＝人々の意識等）		●	●	●	●
	33	問 32	今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）		●			
H 様々な意見の内容から、施策・事業の改善に反映するための設問	34	問 36	調布市の福祉への意見＜自由回答＞		●	●	●	●

- 1 ひきこもりとは、「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊等）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念である」と定義している（出典：厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」）。
- 2 8050 問題とは、80 代の親と働いていない独身の 50 代の子が同居している世帯のこと。ひきこもりの長期高年齢化と親の高齢化につれて深刻な困窮に陥る可能性が指摘されている（出典：平成 30 年厚生労働白書、地域包括支援センターにおける「8050」事例への対応に関する調査報告書）
- 3 デジタル社会とは、インターネットその他の高度情報通信ネットワークを通じて自由かつ安全に多様な情報又は知識を世界的規模で入手し、共有し、又は発信するとともに、先端的な技術をはじめとする情報通信技術を用いて電磁的記録として記録された多様かつ大量の情報を適正かつ効果的に活用することにより、あらゆる分野における創造的かつ活力ある発展が可能となる社会と定義する（出典：デジタル社会形成基本法第 2 条）。
- 4 ソーシャル・インクルージョンとは、「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念（出典：平成 12 年 12 月 8 日厚生省（現・厚生労働省）「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書）。今日的な「つながり」の再構築を図る社会福祉のキーワードとなる。

■前回調査(令和元年度)から外した設問

前回調査 の問番号	設問	外した理由
問 5	手助けを頼める親族・知人の有無	通番 8「困ったときの相談相手」と重複するため
問 2	居住地域 (付問：お住まいの近くにある公立小学校)	選択肢を 8 圏域にするため
問 4	家族構成 (付問：一緒に暮らしている人)	クロス集計に使用しないため
問 9	自治会の有無 (付問：加入状況, 自治会に加入していない理由)	自治会以外の多様な活動主体が考えられるため
問 11	地域の暮らしの中での不安や課題	通番 33「今後力を入れるべき保健福祉施策 (サービス)」で課題意識を把握できるため
問 14	家族以外との会話の状況	通番 20「ひきこもり, 8050 問題, 制度の狭間等の状況」に包含する等, 調整する
問 15	普段の外出状況 (付問：外出をしていない期間, 外出をしなくなったきっかけ, 相談の意向)	通番 20「ひきこもり, 8050 問題, 制度の狭間等の状況」に包含する等, 調整する
問 22	市の福祉ボランティアの養成講座等の認知度, 参加意向	設問数を勘案して精査
問 24	拠点の機能に関する希望	設問数を勘案して精査
問 25	地域のつながりを感じるか	通番 29「地域の暮らしの満足度」と重複するため
問 28	地域で福祉サービスの利用に結びついておらず困っている人の有無 (付問：具体的な内容<自由回答>)	通番 22・23「特集テーマ① 制度の狭間等に関する設問」に包含するため
問 30	保健福祉施策 (サービス) に関する情報入手の媒体	通番 24・25「特集テーマ② デジタル社会の設問」に包含するため
問 31	制度や相談窓口の認知度	設問数を勘案して精査
問 33	保健福祉施策 (サービス) の充実のために重要だと思う取組	通番 33「今後力を入れるべき保健福祉施策 (サービス)」の設問に包含するため
問 34	介護者に必要な支援	過去の回答結果に大きな変化が見られないため 設問数を勘案して精査
問 35	調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと	実情に基づかず, イメージでの回答になる恐れがあるため

調査 2 高齢者の社会参加とこれからの暮らしに関する意識調査(65 歳以上の市民)

※設問数, 設問項目の内容については, 今後の検討により変更することがあります。

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無 (比較の可否)	共通設問 (※は選択肢が異なる)			
					市民	高齢	障害者	障害児
A 回答者の属性×各設問のクロス集計結果から, 属性毎の特徴や傾向を分析するための設問	1	問 1	回答者	H28, R 元比較可		●	●	●
	2	問 2	性別	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	3	同	年齢	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	4	問 5	居住地域	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	5	問 18	職業 (就労状況)	H28, R 元比較可	●	●		
	6	新規	居住年数		●	●		
	7	問 3	住居形態 (戸建, 集合住宅, 施設等)	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	8	問 4	同居の家族構成	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	9	問 9	困ったときの相談相手 (人・機関)	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	10	問 6	介護の有無 (付問: 主な介護者, 介護が必要になったときに生活したい場所)	H28, R 元比較可		●		
B 地域のつながり, つながりが必要な場面, 地域活動の基盤に関する考えの把握から, ささえあいのきっかけづくり, 地域活動の多様化, 地域参加の促進策を検討するための設問 (地域力強化)	11	問 7	近所づきあいの状況 (付問: 近所づきあいをしていない理由)	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	12	新規	地域のつながりの必要性		●	●		
	13	新規	地域のつながりが必要な場面 (付問: つながりを必要としない理由)		●	●	●	●
	14	新規	参加しやすい地域活動の種類 (自治会, NPO, 自主グループ等)		●	●		
C 市民同士でささえあう意識と実践, 活動の現状と関心, 参加しやすい条件の把握から, 共助のきっかけづくり, 共助に意欲ある潜在的な人材への働きかけ方, 実践に結びつける効果的な取組を検討するための設問 (地域力強化, 担い手確保)	15	問 11	手助けしてほしいこと, 手助けできること		●	●	●	●
	16	新規	実際に手助けをした経験 (過去 1 年間) の有無		●	●		
	17	問 12	地域活動・ボランティア活動の取組状況		●	●		
	18	問 13	地域活動・ボランティア活動への取組意向 (付問: 取り組まない理由)	H28, R 元比較可	●	●	●	●
	19	問 14	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件		●	●	●	●
D 特集テーマ① 高齢者の就労を支援する取組と環境づくりを検討するための設問	20	問 19	今後の就労意向			●		
	21	新規	就労を希望する年齢, 希望する就労形態			●		
	22	新規	就労のための支援策			●		

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無（比較の可否）	共通設問（※は選択肢が異なる）			
					市民	高齢	障害者	障害児
E 特集テーマ② 災害時の避難支援体制の強化策を検討するための設問	23	問 31	災害時の避難が一人でできるか（付問：災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無）	H28, R 元比較可		●		
	24	新規	防災訓練等の参加経験（付問：参加しない理由）			●	●	●
	25	新規	防災訓練等への参加意向			●	●	●
	26	新規	避難行動要支援者名簿の認知度，登録意向			●	●	●
F 特集テーマ③ 認知症対策，権利擁護，成年後見の普及策を検討するための設問	27	新規	認知症に備えているか，今後備えておきたいか			●		
	28	問 23	アドバンス・ケア・プランニング ⁵ や終活ノート（調布市版エンディングノート「じぶんノート」）等の認知度や活用状況			●		
	29	新規	成年後見制度，地域福祉権利擁護事業（社協）の認知度		●	●	●	
	30	新規	将来，判断能力が低下した際，誰に財産管理等を任せるか		●	●	●	
	31	新規	今後の成年後見制度の利用意向			●	●	
	32	問 30	認知症対策として必要な取組			●		
G 特集テーマ④ コロナ禍，ひきこもり，制度の狭間等の実態把握から，必要な対策を検討するための設問	33	新規	コロナ禍による暮らしへの影響の有無（就労，収入等）		●	●	●※	●※
	34	新規	ひきこもり，8050 問題，制度の狭間等の状況（必要な支援を利用しているか。利用していない理由）		●	●		
H 特集テーマ⑤ 「デジタル社会」を地域福祉に生かす方策を検討するための設問	35	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における情報の受発信・共有の方策，アイデアについて		●	●	●	●
	36	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における交流の拡大・深化の方策，アイデアについて		●	●	●	●
I 暮らしの満足度，施策意向の把握から，高齢者が暮らしやすい地域づくりに向けて重点的な取組を検討するための設問	37	新規	地域の暮らしの満足度（9 項目）		●	●		
	38	新規	交流する機会・方法への意向（商店街やお店との連携，ネット等）			●		
	39	問 33	市の高齢者保健福祉施策の認知度	H28, R 元比較可		●		
	40	新規	暮らしの中のバリアフリーへの感想（ハード＝市内施設等，ソフト＝人々の意識等）		●	●	●	●
	41	問 34	今後力を入れるべき高齢者保健福祉施策（サービス）			●		
J 様々な意見の内容から，施策・事業の改善に反映するための設問	42	問 35	調布市の福祉への意見＜自由回答＞		●	●	●	●

5 アドバンス・ケア・プランニング（ACP，人生会議）とは，自分が病気になったり，介護が必要になったりした時に，「自分はどう生きたいか」をあらかじめ考え，家族や大切な人，医療・介護ケアチームと繰り返し話し合い，自分の思いを共有することをいう。（出典：調布市ホームページ）。

■前回調査(令和元年度)から外した設問

前回調査 の問番号	設問	外した理由
問 8	地域の暮らしの中での不安や課題	市民調査でも把握しているため 設問数を増やさないため
問 10	普段の外出状況（付問：外出をしていない期間，外出をしなくなったきっかけ，相談の意向）	今回は別の深掘りテーマとするため
問 15	市の福祉ボランティア養成講座等の認知度，参加意向	設問数を増やさないため
問 16	身近な拠点の利用状況	設問数を増やさないため
問 17	拠点の機能に関する希望	設問数を増やさないため
問 19	今後の就労意向（付問：仕事をしたい理由）	設問数を増やさないため
問 20	「高齢者」を意識する年齢	設問数を増やさないため
問 21	主観的健康観（付問：健康に不安があることの内容）	設問数を増やさないため
問 22	かかりつけ医・歯科医・薬局の有無	設問数を増やさないため
問 24	終末期に過ごしたい場所（付問：自宅で終末期を過ごすにあたって，不安なこと）	設問数を増やさないため
問 25	参加を希望する健康づくり事業，事業の形式	設問数を増やさないため
問 26	介護経験の有無（付問：介護の対象者）	設問数を増やさないため
問 27	認知症カフェ等介護者の集いの場の認知や参加の意向	交流機会への意向を聴いているため。「認知症カフェ等介護者の集いの場」への意向を把握する場合は設問項目とする
問 28	必要な介護者支援策	過去の回答結果に大きな変化がないため 設問数を増やさないため
問 29	認知症になった場合の暮らしや備えの状況	深掘りテーマとして別の設問をしているため
問 32	地域で福祉サービスの利用に結びついておらず困っている人の有無 （付問：具体的な内容＜自由回答＞）	設問数を増やさないため 回答者がイメージしづらいため

調査3 (18歳以上)障害・難病等のある方の地域生活に関する調査

※設問数, 設問項目の内容については, 今後の検討により変更することがあります。

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無 (比較の可否)	共通設問 (※は選択肢が異なる)			
					市民	高齢	障害者	障害児
A 回答者の属性×各設問のクロス集計結果から, 属性毎の特徴や傾向を分析するための設問	1	問 1	回答者			●	●	●
	2	問 2	性別		●	●	●	●
	3	同	年齢		●	●	●	●
	4	新規	居住地域		●	●	●	●
	5	問 5	住居形態 (戸建, 集合住宅, 施設等)		●	●	●	●
	6	問 3	同居の家族構成		●	●	●	●
	7	新規	主な介護者の年齢, 同居・別居の有無				●	
	8	問 7	所持する手帳・受給者証と等級				●	
B 相談支援に関する現状と相談・支援 (サービス) への評価を把握し, 相談支援の改善, 新たな支援・サービスを検討するための設問 (相談支援強化)	9	問 15	困ったときの相談相手 (人・機関)		●	●	●	●
	10	問 15	(関係機関に相談した人) 相談のしやすさ, しづらかった点				●	●
	11	問 9	日常生活への支援の有無 (付問: 支援を受けていない理由)				●	
	12	新規	期待する支援・サービスの内容				●	
	13	問 8	健康や医療について困っていること				●	
	14	問 6	今後の居住形態の意向 (自宅, GH, 施設等)				●	●
C 地域のつながり, つながりが必要な場面の把握から, 地域参加の促進策を検討するための設問 (地域力強化)	15	問 21	近所づきあいの状況 (付問: 近所づきあいをしていない理由)		●	●	●	●
	16	新規	地域のつながりが必要な場面 (付問: つながりを必要としない理由)		●	●	●	●
D 市民同士でささえあう意識, 参加しやすい条件の把握から, 障害や病気であっても互助に意欲ある潜在的な人材への働きかけ方, 実践に結びつける効果的な取組を検討するための設問 (地域力強化, 担い手確保) (地域力強化, 担い手確保)	17	問 10	手助けしてほしいこと, 手助けできること		●	●	●	●
	18	新規	地域活動・ボランティア活動への取組意向		●	●	●	●
	19	新規	地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件		●	●	●	●
E 特集テーマ① 障害者等の就労や社会参加を支援する環境づくりを検討するための設問	20	問 16	就労形態 (現在の就労状況, 付問: 勤務先への障害・病気のあることの伝達, 障害者就労支援センターの認知状況)				●	
	21	問 18	今後したい仕事 (今後の就労意向)				●	

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無（比較の可否）	共通設問（※は選択肢が異なる）			
					市民	高齢	障害者	障害児
※特集テーマは、直面する問題・テーマの本質を探る（深掘りする）ための設問	22	問 17	仕事をするために必要だと思うこと（就労のための支援策）			●		
	23	問 19	仕事や通所施設以外での活動の機会の有無			●		
	24	問 20	スポーツ活動・運動をする頻度（現在の活動日数，活動場所，付問：スポーツ活動・運動をほとんどしない理由）			●	●	
F 特集テーマ② 障害者等の視点から，バリアフリー，差別解消，権利擁護，成年後見の普及策を検討するための設問	25	問 24	調布のまちは，障害のある人にとって住みやすいまちとを感じるか（地域の暮らしの満足度）			●	●	
	26	新規	暮らしの中のバリアフリーへの感想（ハード＝市内施設等，ソフト＝人々の意識等）		●	●	●	
	27	問 25	障害者差別解消法，合理的配慮，交流機会等の認知度		●		●	
	28	問 26	障害を理由に差別を受けたり，偏見を感じるものの有無			●	●	
	29	新規	差別や偏見を感じる場面			●	●	
	30	新規	外出時に困ること			●	●	
	31	問 28	ヘルプカードの所持について（付問：ヘルプカードの効果）	H28, R 元比較可			●	●
	32	新規	成年後見制度，地域福祉権利擁護事業（社協）の認知度		●	●	●	
	33	新規	将来，判断能力が低下した際，誰に財産管理等を任せるか		●	●	●	
	34	新規	今後の成年後見制度の利用意向			●	●	
G 特集テーマ③ 災害時の避難支援体制の強化策を検討するための設問	35	問 22	災害時の避難の際，手助けを頼める人の有無			●	●	
	36	問 23	防災訓練等の参加経験（付問：参加しない理由）			●	●	
	37	新規	防災訓練等への参加意向			●	●	
	38	新規	避難行動要支援者名簿の認知度，登録意向			●	●	
H 特集テーマ④ コロナ禍の実態把握から，必要な対策を検討するための設問	39	新規	コロナ禍による暮らしへの影響の有無（就労，サービス利用等）		●	●	●※	
I 特集テーマ⑤ 「デジタル社会」を地域福祉に生かす方策を検討するための設問	40	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における情報の受発信・共有の方策，アイデアについて		●	●	●	
	41	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における交流の拡大・深化の方策，アイデアについて		●	●	●	
J 障害者等の施策意向，介護者の不安の把握から，障害者等・介護者が暮らしやすい地	42	問 30	今後力を入れるべき障害者施策（サービス）			●	●	
	43	問 13	主な介護者の不安や困りごと			●	●	

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無（比較の可否）	共通設問（※は選択肢が異なる）			
					市民	高齢	障害者	障害児
域づくりに向けて重点的な取組を検討するための設問	44	新規	必要な介護者支援策				●	●
K 様々な意見の内容から、施策・事業の改善に反映するための設問	45	問 31	調布市の福祉への意見<自由回答>		●	●	●	●

■前回調査(令和元年度)から外した設問

前回調査 の問番号	設問	外した理由
問 11	家族以外との会話の状況	設問数を増やさないため
問 12	普段の外出状況（付問：現在の状況になったきっかけ、相談の意向）	設問数を増やさないため
問 13	主な介護者の <u>続柄・性別・年齢</u>	設問数を増やさないため
問 14	地域の暮らしの中での不安や課題	相談、支援、バリアフリー等の設問と重複するため
問 16	就労形態（付問： <u>勤務年数</u> ）	設問数を増やさないため
問 27	してほしい支援や合理的配慮・心に残っている支援や配慮（自由記述）	自由意見で把握するため
問 29	市の相談窓口や制度の認知度	設問数を増やさないため

調査 4 (18 歳未満の保護者)障害・難病等のある方の地域生活に関する調査

※設問数, 設問項目の内容については, 今後の検討により変更することがあります。

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無 (比較の可否)	共通設問 (※は選択肢が異なる)			
					市民	高齢	障害者	障害児
A 保護者の属性×各設問のクロス集計結果から, 属性毎の特徴や傾向を分析するための設問	1	問 1・4	保護者 (回答者) とあて名本人 (子ども) との関係					●
	2	新規	保護者・あて名本人の同居・別居の有無					●
	3	問 2	(保護者の) 性別		●	●	●	●
	4	同	(保護者の) 年齢		●	●	●	●
	5	問 5	(保護者の) 居住地域		●	●	●	●
	6	新規	(保護者の) 住居形態 (戸建, 集合住宅, 施設等)		●	●	●	●
B あて名本人 (子ども) の属性と日中活動, 保育・教育, 就労に求めていることの把握から, 関連施策・事業, 環境整備を検討するための設問	7	問 7	あて名本人の学齢					●
	8	問 6	所持する手帳・受給者証と等級					●
	9	新規	手帳・受給者証を所持し始めた時期 (生まれつき・就学前, 小・中・高校)					●
	10	問 3	あて名本人の同居家族					●
	11	問 8	日中 (平日) の過ごし方 (就学後の場合は学校・学級)					●
	12	問 10	保育園・幼稚園, 学校以外での活動の機会の有無					●
	13	問 11	スポーツ活動・運動をする頻度 (現在の活動日数, 活動場所, 付問: スポーツ活動・運動をほとんどしない理由)				●	●
	14	問 9	就学後の場合: , 学校以外のサービス・施設の利用状況, 放課後活動に求めていること					●
	15	問 12	子どもに関する不安 (保育園・幼稚園・学校, それ以外)					●
	16	問 14	子どもの健康や医療等で困っていること					●
	17	問 16	子どもの将来の働き方への希望					●
	18	問 18	子どもが将来, 就労する上で必要だと思うこと					●
	19	問 17	今後の居住形態の意向 (自宅, GH, 施設等)				●	●
	20	問 30	i-ファイル ⁶ の認知状況	H28, R 元比較可				●

6 i-ファイルとは, 希望に応じて市が障害児に配付する個別記録票のこと。「i」には, 「individual(個別の, 個人の)」や, 「identity(個性・主体性)」, 「愛」という意味が込められている (出典: 調布市ホームページ)。

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無（比較の可否）	共通設問（※は選択肢が異なる）			
					市民	高齢	障害者	障害児
C 保護者の相談支援に関する現状と評価の把握から、相談支援の改善、保護者の不安軽減策を検討するための設問（相談支援強化）	21	問 12	保護者の不安（家庭・子育て、医療・福祉サービス）				●	
	22	問 13	保護者が困ったときの相談相手（人・機関）		●	●	●	
	23	新規	（関係機関に相談した人）相談のしやすさ、しづらかった点			●	●	
	24	問 13	主な介護者の不安や困りごと			●	●	
	25	新規	必要な介護者支援策			●	●	
	26	新規	親の会等への参加状況（付問：参加していない理由）				●	
D 地域のつながり、つながりが必要な場面の把握から、地域参加の促進策を検討するための設問（地域力強化）	27	問 20	保護者の近所づきあいの状況（付問：近所づきあいをしていない理由）		●	●	●	
	28	新規	保護者として地域のつながりが必要な場面（付問：つながりを必要としない理由）		●	●	●	
E 市民同士でささえあう意識、参加しやすい条件の把握から、障害児を持つ保護者であっても共助に意欲ある潜在的な人材への働きかけ方、実践に結びつける効果的な取組を検討するための設問（地域力強化、担い手確保）（地域力強化、担い手確保）	29	問 22	保護者自身が手助けしてほしいこと、手助けできること		●	●	●	
	30	新規	保護者として地域活動・ボランティア活動への取組意向		●	●	●	
	31	新規	保護者として地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件		●	●	●	
F 特集テーマ① 障害児を持つ保護者の視点から、バリアフリー、差別解消、権利擁護、成年後見の普及策を検討するための設問 ※特集テーマは、直面する問題・テーマの本質を探る（深掘りする）ための設問	32	問 25	調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（地域の暮らしの満足度）			●	●	
	33	新規	暮らしの中のバリアフリーへの感想（ハード＝市内施設等、ソフト＝人々の意識等）		●	●	●	
	34	問 26	障害者差別解消法、合理的配慮、交流機会等の認知度		●		●	
	35	問 27	障害を理由に差別を受けたり、偏見を感じることの有無			●	●	
	36	新規	差別や偏見を感じる場面			●	●	
	37	新規	外出時に困ること			●	●	
	38	問 29	ヘルプカードの所持について（付問：ヘルプカードの効果）	H28, R 元比較可			●	
G 特集テーマ② 障害児の視点から、災害時の避難支援体制の強化策を検討するための設問	39	問 23	災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無			●	●	
	40	問 24	防災訓練等の参加経験（付問：参加しない理由）			●	●	
	41	新規	防災訓練等への参加意向			●	●	
	42	新規	避難行動要支援者名簿の認知度、登録意向			●	●	

設問意図	通番	前回 R 元 ／新規	設問項目	前々回 H28 データの 有無（比較の可否）	共通設問（※は選択肢が異なる）			
					市民	高齢	障害者	障害児
H 特集テーマ③ コロナ禍の実態把握から、必要な対策を検討するための設問	43	新規	コロナ禍による暮らしへの影響の有無（就労、サービス利用等）		●	●	●※	●※
I 特集テーマ④ 「デジタル社会」を地域福祉に生かす方策を検討するための設問	44	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における情報の受発信・共有の方策、アイデアについて		●	●	●	●
	45	新規	インターネットや情報（データ）等を効果的に活用する「デジタル社会」における交流の拡大・深化の方策、アイデアについて		●	●	●	●
J 障害児等が暮らしやすい地域づくりに向けて、重点的な取組を検討するための設問	46	問 32	今後力を入れるべき障害者施策（サービス）				●	●
K 様々な意見の内容から、施策・事業の改善に反映するための設問	47	問 33	調布市の福祉への意見＜自由回答＞		●	●	●	●

■前回調査(令和元年度)から外した設問

前回調査 の問番号	設問	外した理由
問 15	進学意向	設問数を増やさないため
問 19	保護者の健康状況	設問数を増やさないため
問 21	地域活動・ボランティア活動で、やっている活動	設問数を増やさないため
問 28	してほしい支援や合理的配慮・心に残っている支援や配慮（自由記述）	自由意見で把握するため
問 31	市の相談窓口の認知状況	設問数を増やさないため